

昨年度から大阪府の公立高等学校の入試制度が大きく変わりました。そのために現在の中学校1年生、2年生はさらに入試での調査書評定などについて変更があります。

※現在の2年生（4月から3年生）の受験年度は平成30年度（2018年度）です。

1. 特別入学者選抜と一般入学者選抜

特別入学者選抜（一部の選抜・学科）を除き、ほとんどの学科は一般入学者選抜として一斉に実施されます。

(1) 特別入学者選抜（2月）

① 実施学科等（入試に実技検査または面接検査を実施する学科）

全日制の工芸高校の全学科、デザインシステム科、総合造形科、音楽科、体育に関する学科、芸能文化科、演劇科、デュアル総合学科、エンパワメントスクール、多部制単位制Ⅰ部・Ⅱ部（桃谷高校）、中央高校、海外帰国生徒選抜、中国帰国、外国人生徒選抜知的障がい生徒自立支援コース、高等支援学校職業科、共生推進教室

② 日程（平成30年度）：出願2月14、15日、学力検査2月20日、実技・面接2月21日（音楽科は出願2月6、7日、実技検査2月18日、学力検査・聴音2月20日）、合格発表2月28日

(2) 一般入学者選抜（3月）

① 実施学科等：全日制的普通科（単位制、総合選択制を含む）、総合学科、その他の専門学科、クリエイティブスクール（桃谷高校を除く）、多部制単位制Ⅲ部、定時制（中央高校を除く）、通信制

② 日程（平成30年度）：出願3月2、5、6日、学力検査3月12日、合格発表3月20日



※ 特別選抜と一般選抜の両方で募集する学科はありません。特別選抜に出願し、不合格の場合は一般選抜に出願できます。

2. 第1志望、第2志望

以前は同一校に複数の専門学科がある場合のみ第2志望をすることができましたが、普通科も含めて同一校に複数の学科がある場合に第2志望をすることができるようになっています。

志望学科に関わらず総合点の高い者から順に並べて志望順位に従って上位から合格させます。つまり、第1志望の学科で不合格だった者が第2志望の学科で合格し、その学科で総合点の低い第1志望の者が不合格になることもあるということです。（私学の回し合格と同じ）

3. 学力検査

(1) 教科数：特別選抜・一般選抜とも一部を除き全学科5教科で同じ配点です。

特別選抜の帰国生徒選抜、中国帰国生徒外国人生徒選抜は数学と英語の2教科、一般選抜の多部制単位制のⅢ部、定時制（中央高校を除く）は3教科です。

(2) 問題の種類：特別選抜がA（基礎的問題）・B（標準的問題）の2種類、一般選抜がA（基礎的問題）、B（標準的問題）、C（発展的問題）の3種類作成されます。

高等学校が選択し、あらかじめ発表されます。一般選抜の多部制Ⅲ部と定時制の問題は別途作成されます。

(3) 英語：平成 29 年度から**英語のC（発展的問題）の問題文は、指示文も含め全て英語で出題**されています。

英文の量は、指示文や選択肢も含め、これまでの3倍近くとなり、かなりのスピードで読めなければなりません。英作文は単に日本語を英語に直すのではなく、設問に対し自分の考えを英語で書く問題となっています。

リスニングテストも指示も含め全て英語となります。

「読む」「書く」「聞く」の3領域の配点も変わり、「聞く（リスニングテスト）」を33%（以前は20%）に、「書く（英作文）」を20%（以前は8%）に引き上げられています。

(4) 英語の外部試験の導入：「TOEFL iBT」「IELTS」「英検」の外部テストの結果を入試に反映させます。それぞれの外部試験の結果を入試得点に読み替え、学力検査の英語の得点と比べ、高い方を英語の得点とされます。

（参考：換算表）

外部試験	TOEFL iBT	IELTS	英検	学力検査への読み替え率
得点	60～120点	6.0～9.0	準1級	100%
または	50～59点	5.5	—	90%
級	40～49点	5.0	2級	80%

4. 評定

(1) 絶対評価：平成 28 年度から5点満点の「目標に準拠した評価（絶対評価）」になりました。それぞれの評定がつく人数の割合は定められません。

(2) 倍率：以前は学力検査のある教科とない教科とでは掛ける倍率が異なりましたが、平成 28 年度からはすべての教科が同じ倍率になっています。

(3) 3ヶ年の評定を記載：調査書には、3ヶ年すべての評定を記載します。判定の資料となる割合は**3年：2年：1年＝3：1：1**となります。

(4) チャレンジテスト：

※1年次、2年次の1月に実施されるチャレンジテストは中学校で付ける評定の検証に使われます。毎年のチャレンジテストは統計の手法によって処理され、各評定のチャレンジテストの得点の範囲が定められます。**その範囲から外れた評定のみ範囲内に収まるよう修正**されます。その範囲はかなり広く、統計上約95%がその範囲に入ることになります。

★チャレンジテストの得点と評定の範囲：平成 28 年度1年生）

教科	評定5	評定4	評定3	評定2	評定1
国語	100～71	98～59	92～37	76～14	69～0
数学	100～60	94～38	75～13	48～0	35～0
英語	100～68	99～47	83～25	58～11	46～0

★チャレンジテストの得点と評定の範囲：平成 28 年度 2 年生）

教科	評定 5	評定 4	評定 3	評定 2	評定 1
国語	100～61	93～45	82～26	66～9	57～0
社会	100～45	81～26	63～11	42～4	32～0
数学	100～58	91～38	72～16	47～4	32～0
理科	100～68	99～49	84～24	60～9	44～0
英語	100～59	93～40	74～19	53～7	41～0

※3年次の6月に実施されるチャレンジテストは3年生の各中学校の評定の平均点の範囲を決めるために利用されます。

(5)大阪市統一テスト：3年次の10月に5教科（国語・数学・社会・理科・英語）で実施し、評定に反映されます。各教科ごとに全市の得点分布に応じて以下のように評点を与えられます。（平成 28 年度〔現 3 年生〕の場合）

全体得点分布中	上位 7 % 以内	上位 21 % 以内	上位 41 % 以内
評 定	5	4 以上	3 以上

5. 自己申告書

公立高校の入試のすべての学科で必要となっています。エンパワメントスクールを除き、調査書の「活動/行動の記録」（総合所見）とともにボーダーゾーン内での判定の資料となります。

6. 学力検査と評定の割合

全日制のすべての学科で学力検査と評定の得点比率を、7：3，6：4，5：5，4：6，3：7の中から高校が選択することになっています。

7. ボーダーゾーン

エンパワメントスクール以外のすべての学科で、ボーダーゾーンの幅は 90%～110%となります。

各高校の「アドミッションポリシー」（求める生徒像）に合致した者から合格させます。合致した者で合格者数が募集定員に満たない場合は、次に総合点（学力検査の点と評定を合わせた点）の高い者から合格させます。

8. エンパワメントスクール（平成 27 年度より開設）

(1) 内容：学科は「総合学科」です。学習状況に「つまずき」がみられる生徒を対象に、少人数授業でプリント等を使った個々に合わせた授業でつまずいたところから学び直し、学力を充実させます。社会性を身につけさせ、社会で生き抜く力を養います。

(2) 選抜方法：学ぶ意欲が重視されます。

第1手段として、学力検査の中で国・数・英の得点が一定の基準（今年は45点満点で国語10点、数学10点、英語10点でした）に達した生徒に対し、面接、自己申告書、調査書の「活動/行動の記録（総合所見）」を資料として合格者を決定します。

その割合は2:1:1となります。評価基準は学ぼうとする意欲と、自分の将来への展望です。この手順で募集人数の最大50%まで合格させます。

第2手順として、学力検査と評定の総合点により募集人数に達するまで合格させます。ボーダーゾーンは設定されません。

- (3) 平成30年度入試（現3年生が受験）から、**北淀高校と西淀川高校**（平成29年度は募集停止）を統合して**エンパワメントスクール**となります。（学校の場所は現在の北淀高校）

9. 工科高等学校(大学進学専科など)

平成26年度より、府立工科高等学校9校が、それぞれの特長を生かし、異なった3つの「人材育成の重点化」が図られました。

(1) 高大連携重点型（府立茨木工科、今宮工科、淀川工科高等学校）

工学系大学進学を目指し、技術と理論を兼ね備えた「将来の高度技術者」の育成に重点を置きます。

- ① 「大学進学専科」を設置し、1年次より別枠で40名を単独募集します。
- ② 大学入試に向け、数学Ⅲ、物理、英語等のカリキュラムを充実します。
- ③ 特色ある教科・科目を設定し、先端分野の学習に係る大学等との学外連携を図ります。
- ④ 大学進学に向け、指定校推薦枠の増加に努めます。

(2) 実践的技能育成重点型（府立堺工科、西野田工科、藤井寺工科高等学校）

※ 高度な職業資格取得を目指し、「高い付加価値を生み出す技術・技能を持つ人材」の育成に重点を置きます。

- ① 技術・技能レベルを向上させ、資格取得を促進します。
- ② 企業より技術者を招聘し、精密加工等の高度技術指導を実施し、学んだ技術・技能を活用できる能力を高めます。

(3) 地域産業連携重点型（府立佐野工科、城東工科、布施工科高等学校）

※ 実習や授業における企業連携を進め、「ものづくり現場を支えて指導・管理・改善を推進する現場リーダーとなる人材」の育成に重点を置きます。

- ① 長期企業実習やインターンシップを取り入れるとともに、地域産業と連携して商品開発を行うなど、経験を重視します。
- ② 少人数グループで課題に取り組みせ、一人一人に発表・発言させ、リーダーシップ、チームワーク、コミュニケーション力の育成を図ります。



10. 普通科総合選択制の改編

「普通科総合選択制」は段階的に「総合学科」か「普通科」（普通科の専門コース制）のどちらかに改編されます。平成29年度からは東淀川高校が普通科になっています。

※詳細については後日発表されます。またここに書かれた内容も変更になるかもしれません。大阪市立の高等学校もこの改編に含まれます。

平成29年度大阪府公立高等学校入学者選抜実施校

特別入学者選抜実施校

(1) 全日制の課程（総合学科（エンパワメントスクール）を除く。）

学 科 名 等		高 等 学 校 名	
		府 立	市 立
工業に関する学科	建 築 デ ザ イ ン 科 インテリアデザイン科 プロダクトデザイン科 映 像 デ ザ イ ン 科 ビジュアルデザイン科	_____	市立工芸
	デザインシステム科	_____	岸和田市立産業
美 術 科		_____	市立工芸
体 育 に 関 す る 学 科		摂津、大塚	市立桜宮、市立汎愛
芸 能 文 化 科		東住吉	_____
演 劇 科		_____	市立咲くやこの花
音 楽 科		夕陽丘	_____
総 合 造 形 科		港南造形	_____

(注) 「市立」欄で、岸和田市立の高等学校以外は大阪市立の高等学校である。

(2) 全日制の課程総合学科（エンパワメントスクール）

学 科 名	高 等 学 校 名
	府 立
総 合 学 科	成城、西成、長吉、箕面東、布施北、岬

(3) 多部制単位制Ⅰ部・Ⅱ部（クリエイティブスクール）及び昼夜間単位制

課程等・学科名	高 等 学 校 名	
	府 立	市 立
多部制単位制Ⅰ部・Ⅱ部 普 通 科	桃谷	_____
昼 夜 間 単 位 制 普 通 科 ビ ジ ネ ス 科	_____	市立中央

(注) 「市立」欄は、大阪市立の高等学校である。

一般入学者選抜実施校

(1) 全日制の課程（総合学科（クリエイティブスクール）を除く。）

☐ は普通科総合選択制の高等学校を示す。

学 科 名 等	高 等 学 校 名	
	府 立	市 立

普通科 (総合選択制を含む。)		東淀川、北淀、大手前、旭、茨田、清水谷、高津、夕陽丘、港、泉尾、 <u>大正</u> 、勝山、阿倍野、東住吉、平野、阪南、池田、渋谷、豊中、桜塚、豊島、刀根山、箕面、春日丘、茨木、茨木西、 <u>北摂つばさ</u> 、吹田、吹田東、北千里、山田、三島、高槻北、芥川、阿武野、大冠、摂津、島本、四條畷、寝屋川、西寝屋川、北かわち阜が丘、枚方、長尾、牧野、香里丘、枚方津田、 <u>枚方なぎさ</u> 、守口東、門真西、野崎、 <u>緑風冠</u> 、交野、布施、花園、かわち野、みどり清朋、山本、八尾、八尾翠翔、生野、大塚、柏原東、河南、富田林、 <u>金剛</u> 、懐風館、長野、長野北、藤井寺、狭山、登美丘、泉陽、三国丘、金岡、東百舌鳥、堺西、福泉、堺上、 <u>成美</u> 、美原、泉大津、信太、高石、和泉、岸和田、久米田、佐野、日根野、貝塚南、りんくう翔南、泉鳥取	市立東、市立桜宮、市立汎愛、大阪市立、 <u>東大阪市立日新</u>
普通科 (単位制高等学校)		市岡、大阪府教育センター附属、槻の木、鳳	_____
学 科 業 に 関 する	商 業 科	_____	市立淀商業、市立住吉商業、市立鶴見商業、東大阪市立日新、岸和田市立産業
	流通経済科	_____	市立西
	マネジメント創造科	_____	堺市立堺
グローバルビジネス 科		_____	市立大阪ビジネスフロン ティア
農業に関する学科		園芸、農芸	_____
工業に関する学科 (特別選抜実施学科を除く。)		淀川工科、西野田工科、今宮工科、茨木工科、城東工科、布施工科、藤井寺工科、堺工科、佐野工科	市立都島工業、市立生野工業、市立泉尾工業、市立東淀工業、堺市立堺
情 報 科 学 科		_____	市立西
英 語 科		_____	市立東、大阪市の、市立西、市立南、東大阪市立日新
国 際 教 養 科		旭、枚方、花園、長野、佐野	_____
国 際 文 化 科		住吉、千里、泉北	_____
グ ロ ー バ ル 科		箕面、和泉	_____
国 語 科		_____	市立南
理 数 科		_____	市立東、大阪市の
総 合 科 学 科		住吉、千里、泉北	_____
サイエンス創造科		_____	堺市立堺
文 理 学 科		大手前、高津、豊中、茨木、四條畷、生野、三国丘、岸和田、北野、天王寺	_____
福祉ボランティア科		_____	市立淀商業
食 物 文 化 科		_____	市立咲くやこの花
総 合 学 科		柴島、今宮、能勢、千里青雲、福井、芦間、門真なみはや、枚岡樟風、八尾北、松原、堺東、伯太、貝塚	市立扇町総合、市立咲くやこの花

(注) 「市立」欄で、堺市立、東大阪市立及び岸和田市立の高等学校以外は大阪市の高等学校である。

(2) 全日制の課程総合学科（クリエイティブスクール）

学 科 名	高 等 学 校 名
	府 立
総 合 学 科	東住吉総合、和泉総合

(3) 多部制単位制Ⅲ部（クリエイティブスクール）及び定時制の課程

*は、多部制単位制Ⅲ部

学 科 名 等		高 等 学 校 名	
		府 立	市 立
普 通 科		大手前、桜塚、春日丘、寝屋川、布施、三国丘	市立都島第二工業、東大阪市立日新
する商業に 関する学科	商 業 科	—————	岸和田市立産業
	マネジメント創造科	—————	堺市立堺
工業に関する学科		—————	市立都島第二工業、市立第二工芸、堺市立堺
総 合 学 科		西野田工科、今宮工科、茨木工科、藤井寺工科、堺工科、佐野工科、成城	—————
総 合 学 科 (クリエイティブスクール)		和泉総合	—————
*普 通 科 (クリエイティブスクール)		桃谷	—————

(注)「市立」欄で、堺市立、東大阪市立及び岸和田市立の高等学校以外は大阪市立の高等学校である。

(4) 通信制の課程

学 科 名	高 等 学 校 名
	府 立
普 通 科	桃谷

進路にかかわる日程の概要

※日程は予定です。変更されることがあります。(下線は確定)

年 月 日	進 路 に か か わ る 予 定	行 事 等
H 2 9 年 (2017 年) <u>1 月 12 日</u> 3 月 1 日－3 月 3 日	<u>1・2 年 チャレンジテスト</u> 1・2 年 学年末テスト	3 月 27 日－4 月 9 日春休み
5 月 29－30 日 6 月 16 日 6 月 26－28 日 <u>6 月 21 日</u> 7 月 12－18 日 9 月 4 日 9 月 28－29 日 10 月 5 日 10 月 20 日	1 学期中間テスト 第 1 回実力テスト 1 学期期末テスト <u>3 年 チャレンジテスト</u> 保護者懇談会 第 2 回実力テスト 2 学期中間テスト 大阪市統一テスト 第 3 回実力テスト	5 月 21－23 日 修学旅行 6 月 9 日 体育大会 6 月 17 日 3 年第 1 回進路説明会 7 月 21 日－8 月 24 日 夏休み 10 月 8 日 文化発表会 10 月 28 日 3 年第 2 回進路説明会

11月6－10日 11月13日 11月20－22日 12月14－20日	3年進路懇談 第4回実力テスト 2学期期末テスト 3年進路懇談…私学、公立特別入試受験校	12月26日－1月8日 冬休み
H30年(2018年) 1月10－11日 1月23－25日 <u>2月10－11日</u> 2月13－19日 <u>2月20－21日</u> <u>3月12日</u>	第5回実力テスト 3年学年末テスト 私学入試 3年進路懇談…公立一般入試受験校 <u>公立特別入試(2月28日合格発表)</u> <u>公立一般入試(3月20日合格発表)</u>	1月10－12日 私学進路相談 3月中旬 卒業式

アドミッションポリシー（求める生徒像）の例

〔テーマ〕 あなたは、中学校などの生活（あるいはこれまでの人生）でどんな経験をし、何を学びましたか。また、それを高等学校でどのように生かしたいと思いますか。できるだけ具体的に記述してください。

北淀高校

本校では、きめ細かい指導を特色とし、規律・自主性を重んじるとともに、思いやりの心や人権尊重の精神等、豊かな人間性を育む教育を実践しています。また、ユネスコスクールとしての活動や2年次からのコース制で、生徒の自己実現を図っています。他の生徒と協調しながら、自分の可能性を伸ばそうと努力する生徒を求めます。

- 1) 本校志望の意志が強く、「造形」「情報」「教養」のいずれかのコースで自己実現をめざす生徒
- 2) 中学校での活動（部活動、生徒会活動）に積極的に取り組み、入学後も活動を継続する意志を持った生徒
- 3) 国際交流活動に取り組み、夢に向かってチャレンジする生徒
- 4) 人に対して思いやりの心を持ち、人の立場を理解して行動できる生徒
- 5) 規則正しい生活ができ、高校生活を前向きに送ろうとする意志を持った生徒

柴島高校

本校は、一人ひとりを大切にする教育を創立以来の伝統とする学校です。社会で主体的に生きていくための学力を育てる「コアカリキュラム授業群（2020年の大学入試改革への対応も視野に入れています。）」、自分だけの時間割を作成するなかで自己決定力を育てる「総合学科システム（自分のことは自分で決める力です。）」、そして一人ひとりが自分らしさを持って生きていくことを可能にする「多様性尊重の取組。キーワードはリスペクト。（たとえ自分とは違っていても相手を認めること・受け入れることです。）」が本校の特色であり、常に変化する今日の社会のなかで「未来を変える力」を育むことを目標にしています。

- 1) 自らの個性を発信することのできる生徒
- 2) 互いの違いを尊重することのできる生徒
- 3) とともに学びともに生きる集団作りに貢献したい、という強い意志を持った生徒
（本校は、知的障がい生徒自立支援コースを設置しています。）